

避難所運営D I G実施報告書

(防災共助力推進モデル事業)

行 事 名	避難所運営D I G
開催日時	平成21年6月13日(土) 午前10時から午後3時45分まで
開催場所	我孫子市立布佐南小学校
参 加 者	布佐平和台自治会 40名 布佐南小学校教職員 10名 市内自主防災組織関係者 28名 市内学校関係者 23名 災害対策コーディネーター 2名 ファシリテーター 6名 (災害対策コーディネーター連絡会) 布佐南小学校児童 4名
行事の内容	
1 開 会	
開催における事前説明(田中副主幹)	
今後の防災啓発のために、本日の模様をビデオ・カメラで撮影する。	
布佐南小学校井上校長から挨拶	
これだけの人数の方が集まっていたら、232名の児童の安全が守られる気がする。	
2 避難にあたっての講評(北海道教育大学 佐々木貴子准教授)	
○ 防災教育を、自分は、「防災の視点から自分達の生活を考える、防災の視点から環境も福祉もすべてをつなげていこう」という言い方をしている。	
今日のD I Gで、何かに繋がるなということにたくさん気づいてもらいたい。	
○ 今日皆さんどのように来たのでしょうか。事前に聞いた話だと、最初に一時避難所に集合して近所の人たちと一緒に来るといふ形だと思います。	
今これから体育館に入っていきますが、実際の場合、鍵は誰がもってきて、誰が開けるのでしょうか?皆さん知っていますか?	
中に入るまで、入ってからも「あれ?こういうことはどうなの?」ということに多く感じていただき、たくさんディスカッションしていただきたい。	

3. グループワーク①

※ファシリテーター6名の紹介

○KJ法

グループワークでは、いろいろな立場にたって、いろいろな意見を言い合うことが大切。(正しい・正しくないという判断はしないこと。)

○避難所である体育館に避難してきたときに、みなさんどこに座りますか？

適当に座るといふ考えもあるかもしれませんが、同じ自主防災組織、近所の人たちで固まった方がよい。そのときどうやって人を集めますか？マイクはないですよ。

以下のことについて、付せん紙1枚に1つのことを記載してください！

- ①避難所に入ってくるまでに気づいたモノ・コト・人(こんなモノがあったら。こんなコトがあったら。こんな人がいたら。) 例) スリッパは？雨降ったときの傘は？靴を入れる袋は？など

車イスの参加者に、一人で体育館に入れるかの実演。

⇒わずか、1～2cmの段差も通るのが大変。

入口付近にモノを置きっぱなしにするのは、健常者にとってはたいしたことではないが、車イスの人には大きな障害になるので、そのようなことも気をつける必要がある。

- ②避難所に来る前に家でしてきたこと、して来るべきこと。

- ③今日避難所に持ってきたモノ、避難する際に持っていかなければいけないと思うモノ。

- ④避難所へ来る時に声をかけた人がいたかどうか？

**以上4つのことを模造紙を4等分にしてそれぞれ分けて貼り付けてください。
貼る際に、みんなで書いたことを話し合いながら、そして、同じ意見だったら付せん紙を一緒にして、整理しながら貼ること。**

このDIGをやることは、入口です。最後はマニュアル作りまでやる必要があります。いろんなことに気づいて、それを高めていくことが大切です。今日はその方向性を探っていくものです。今後どんなことを新たに学んでいくのか、どんなことをするのかを積み上げていくものです。

○ 代表グループの発表

①・飲み水やトイレの案内板

- ・入口にいろんなものが置いてあった。入口に段差があった。
- ・体育館だけでは狭いのではないか。
- ・貴重品の持込を考えて警備担当が必要。
- ・事前に避難所の収容スペースの把握。事前にスペース割り振りを決める。
- ・避難所マニュアルを作成する必要がある。
- ・入口で混み合った場合どのように対応するのか。
- ・避難所に必要なものを避難所に常備しておく必要があるのでは。
- ・冷暖房対応はどうするのか？・夜間の照明は？・ペットは？
- ・高齢者や赤ちゃんがいたらどうするのか？
- ・避難路の確保が必要。
- ・要援護者を優先的に入ってもらうことがよいのでは。
- ・本小学校には、5つの自治会の避難先になっているので、5つの自治会の代表で構成された運営委員会を構成する必要がある。(小学校区単位での自主防災連合会)
- ・鍵を開ける人

②おさまるまで机の下にもぐる。

電気 (ブレーカーを落とす)・ガスのチェック、戸締り

家族の安全確認、隣人への声掛け

玄関に避難所にいった旨を張っておく。(家族がいなかった時)

③非常持ち出し袋、水、帽子、タオル、携帯電話、貴重品 (現金)、ペット？、タオル、常備薬、ティッシュペーパー、寝袋、マスク、レインコート、かさ、軍手、ラジオ付き懐中電灯、ダンボール、トランシーバー、簡易トイレ、ガムテープ (スペース分け用)、バケツ、敷物、電池、情報収集の自転車、ラップ、携帯電話の充電器、新聞紙

④近隣に住んで居る人、向こう三軒両隣、家族、一人暮らしの人、ペット

※斜体赤字は、他グループからの追加意見。

我孫子市市民安全課から避難所のカギについて

市内を6地域に分けて、対策支部を設けて、そこを拠点にして各地域をカバーしていく。地域内に居住している職員3名にカギを持たせており、避難所の開設にあたってもらうようにしている。

しかしながら、必ずしも早い段階で避難所に来られるとは約束できない部分もあるので、今後、地域の皆さんの中でルールを決めて、学校と連携をとってもらいたい。

⇒是非、事前に地域の皆さんと校長さんを含めて今後どのような体制にしていくのかを決めていただきたい。

○ お昼休憩

アルファ米、パンの缶詰、水を配布。

(アルファ米が思ったよりおいしかったという感想もあった。)

○小学校に設置している防災井戸の見学

4. グループワーク② (事前説明・校舎内見学)

※NHK「北海道クローズアップ」の札幌市における要援護者対策について映像を視聴。

⇒トイレの問題は重要。今日避難所に来てトイレが洋式だったか和式だったか、使えないトイレはなかったか確認した人はいましたか？高齢者にとって和式は非常に辛い。阪神・淡路大震災では、トイレを我慢するため、水分をきちんと補給しなくて具合が悪くなったというケースが多くあった。新潟県中越沖地震の時からトイレを我慢してはいけない、水分をきちんと補給しなくてはいけないという考えに変わってきた。阪神・淡路大震災の時に表沙汰になっていない「トイレの悲劇」があった。トイレを人目につかないところに設置され、まだ設備が十分ではなかったときに、トイレに簡単なうすいカーテンをただけのものであった時に、夜になってすけてしまい、襲われた女性が多くいたという事実もある。このような配慮もしていかないといけない。

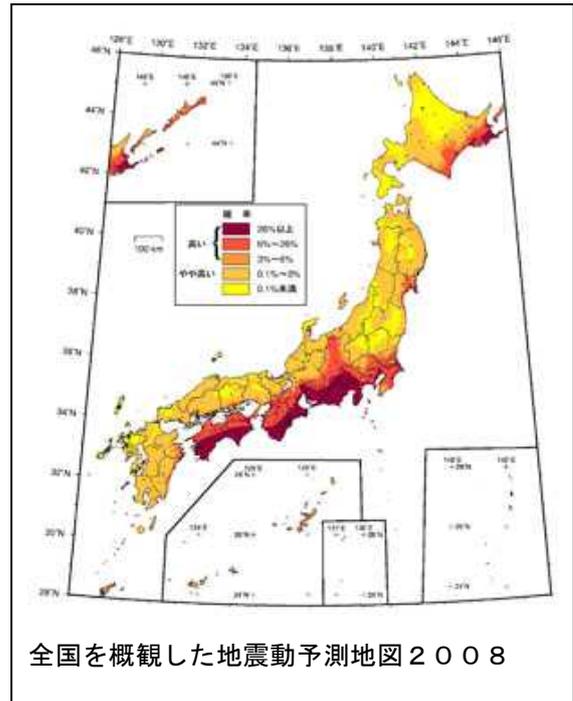
○ パワーポイントを使用して防災について説明

地震調査研究推進本部が作成した「全国を概観した地震動予測地図」において、地震発生の可能性が低い岩手・岩手内陸地震が発生したため、いつでも起きてもおかしくない。

災害対応の基本は、「災害対策基本法」であり、災害対応の第一義的な責任は「市町村長」にある。

市の地域防災計画に対して地域の一員として、自分達の町をどのようにして守っていくかを考えていく必要がある。

防災の原点は、自分の命は自分で守る「自助」であり、自分の命が守れたら自分達の地域は自分達で守る「共助」へ繋げていくということが大切であり、子供たちへこのことを教える「防災教育」も重要である。



全国を概観した地震動予測地図 2008

<自助>

- 建物・家の中の安全確保、避難時の準備
- 親から子へ（防災を通してのしつけ）
- 日頃からの災害を想定したイメージ訓練
- 毎日がW a p（変化に気づく感性）
- 定期的な防災訓練の参加（学校を巻き込んで）
- 「あいさつ」からはじまる人間関係づくり
- 自分と家族の命が守られたら、向こう三軒両隣

今の子どもたちは、町内会活動をよく知らない。我孫子市は、ゴミの分別を全国で一早くスタートして、環境教育にも力を入れており、このようなことを子どもに教えてあげることが大切である。

・防災教育の一例

- ①小学校での炊飯体験授業、
- ②お年寄りと一緒に挙るD I G（旭川市立朝日小学校）
- ③町内会長とのD I G（函館市立深堀中学校）
- ④地域住民とP T Aとまちについての話し合い（旭川市立近文小学校）

⑤避難所DIG（札幌市立ひばりヶ丘小学校）

⇒本小学校長は、代々ひばりヶ丘地区の防災副部長になっている。
（学校と地域の連携をとれる体制作りを普段からしている。）

<気づいた点>

体育館の床は冷たく、振動が体に響く。必要なのは毛布（上）より
スタイルホーム（下）だと思う。

⑥冬の日の災害避難所体験（札幌市立中の島小学校）

<気づいた点>

- ・ 中には、自分で持ってきたテントを張った人もいた。
- ・ コンロを避難所に持ち込んで、赤ちゃんのミルクづくりをしている女性もいた。

⇒このようなことをしてもよいかなどのルールづくりが必要。

<阪神・淡路大震災時に実際にあった事例>

避難していない人が救援物資の弁当を取りに来た時に、家が大丈夫で
避難していない人はもらうなという意見もあった。最終的には、ライフ
ラインが切れているので避難所に来てなくてもあげるべきというこ
とになった。

<新潟県中越沖地震の実際にあった例>

- ◇体育館の戸口の開閉がうるさいため、戸口をダンボールで作った。
- ◇体育館だけでは、収容できないため、体育館で寝泊りする人は、昼間働いている人だけ、昼間もいる人たちは、校舎の3階に入ってもらい、2階に、赤ちゃんや高齢者に入ってもらった。そしてこの2階に更衣室を設置した。
- ◇学校の施設の横にペットの入るケースを置いてそこにペットを入れて、ボランティアが世話をしていた。

○校舎見学

いろいろなところを計ってもらうため、2mのビニールテープを使う。

気づいたことがあったら、付せん紙に記載していく。

家庭科室があるから包丁が使える、印刷室があるから印刷できる、トイレトペーパー
がいっぱいあるから大丈夫、ということではなく、すべて基本は、学校教育のためにある
ので、使用方法については、学校とルールを事前に決めておく事が大切である。

学校の中を、もし何かあった時には、学校の状況を理解した上で使わせてもらうために、
教室がどうなっている、こういうものがあるということを防災という視点で見る。

例) 校舎に、赤ちゃんや高齢者のスペースにした場合どうなるのだろうか。

更衣室はどうでしょうか。

5. グループワーク③（まとめ・発表）

どんなことに気づいたか・どんなことをやっていかなければいけないのか、グループ内で意見交換をして、付せん紙に記載して、グループごとに発表する。

学校の地図の上に被せてあるビニールシートに、気づいたことを記入する。

<発表>

○ グループ1

- ・ 体育館の収容人数、200～250人ぐらいで、多数が来た場合、中には要援護者の方もいるので、特定のルールが必要だと思う。
- ・ 体育館のガラスが割れた場合、避難所として困る。
- ・ 1階にトイレが男女洋式が1箇所しかなかった。
- ・ 学童保育室が有効に使えるそう。
- ・ 高齢者が校舎を使うには問題点が多々あるのでは。
- ・ 保健室と心の相談室はすぐに使わせていただけるとありがたい。
- ・ 2階・3階に窓から屋根に出れる構造になっているが行くまでに手すりがないので危険。
- ・ 避難所運営にはリーダーが必要で、避難所を開設したらすぐに動ける組織作りが必要。
- ・ 今日のような意見交換を、プロセスを区切って何度も行うことが大切。

○ グループ2

- ・ 教室の時計の落下防止対策が必要。
- ・ 2階の非常用の扉が開かなかった。
- ・ 教室をできるだけ開放して欲しい。（授乳室や救護室にも使えるので）
- ・ 校庭の花壇で野菜作りをしてもらおうとよいのでは。
- ・ 昇降口に段差がないところもつくった方がよい。
- ・ プールの水が有効利用できるのでは。
- ・ 水飲み場も使用できるとよい。
- ・ 体育館の足音が気になるので工夫が必要。

○ グループ3

- ・ 各自治会（5つ）で安否確認をして、終了後避難所に入ってもらおう。
あらかじめ、体育館を自治会ごとに地区分けをしておけば混乱を防げるのでは。
- ・ 体育館のステージに災害対策本部を設置できたらよいのでは。
- ・ トイレの入口が狭く、また数が少ないので、簡易トイレを一階に設置できるようにしたい。
- ・ 安否確認用の名簿やチェックシートなどを、学校の倉庫などに保管したい。
- ・ 防災用の井戸を有効活用したい。

- ・ 学校と地域が一体となって定期的な話し合いの場を設けたい。
- ・ 各自治会にカギを貸出ししてほしい。

○ グループ4

- ・ 建物自体の耐震化は？ドアが開かなくなったりしないか？ガラスは大丈夫か？
- ・ 近隣の自治会と協力して、相互の調整が必要。
- ・ 本小学校は、敷地が広く、近くに公園もあり、防災用井戸があるのでめぐまれている。

○ グループ5

- ・ 学校生活と避難生活を両立していくことが大切。
- ・ 体育館をでたところに屋根のある通路があるので、炊き出しによいのではないか。
- ・ マンホールを開けて臨時のトイレにできるのではないか。
- ・ 防災用井戸の水をシャワーとして使用したい。
- ・ 校舎を繋ぐ通路に洗濯物を干せるのではないか。
- ・ 相談室をミーティングルームとして活用してはどうか。
- ・ 立ち入り禁止の紙を誰がやるのかということを事前に決めておく必要がある。

○ グループ6

- ・ 段差が非常に多いので、対策をとる必要があるのではないか。
- ・ 障害者用のトイレを別に作る必要があるのではないか。
- ・ ミルクのためのお湯をつくるための炊事場をどこかにつくる必要がある。
- ・ あらかじめ避難してくる人の優先度をつける必要があるのではないか。
- ・ 避難所生活のためのマニュアルを事前につくりたい。

○ グループ7（県・市・学校関係者）

- ・ 教室に入るドアにレールがあるので、そのちょっとした段差も障害者の方には影響が生じるのではないか。
- ・ 消火器が置いてあるが、夜間は危ないのではないか。
- ・ 暑さ対策が大きな課題になるのではないか。
- ・ 心の相談室は、児童も被災し心のケアが必要であるため、児童用に確保した方がよいのではないか。

<佐々木先生からの講評>

- ・ 学校は、本来は教育の場である。それを分かったうえで、避難所運営をしていくことが大切である。
- ・ 避難所になった学校の先生は、生徒にも気を配り、避難してきた方にも気を配り、心身とも疲れ果てたケースは実際にあった。
- ・ 心の相談室や保健室は、児童たちが学校で気持ちよく生活するために、児童のために使用した方がよい。
- ・ 学校は教育の場の回復を、市の職員は市全体の社会機能回復を行うため、地域住民自身ができることは自分達でやっていく（共助）ことが非常に大切である。
- ・ 布佐南小学校は、昭和57年に建った建物であるため、新耐震基準は満たしてはいる。
- ・ 自分達でつくれるマイトイレを自分達で用意するなど、自分達でできることを考えることが大切である。
- ・ 自分の住んでいる守谷では、年1回、すずめ公園にある防災倉庫を開けて町内会費等で購入した資機材を展示するとともに、もちつき大会を行い、一人200円で参加できるようにしている。
- ・ 避難所開設のための備品を学校のどこに置くのかということ、地域と学校と市とで話し合って今後決めていただきたい。
- ・ 新潟中越地震の時に、地域の和をかきまぜるボランティアやご飯だけ食べにくるニートのような若者もいたりするので、そのようなことに立ち向かうためには、普段から地域力をつけていく必要がある。
- ・ 新潟中越地震の時に、一人で家に居るのが怖いということで、1ヶ月経っても避難所から自宅に戻らないおばあちゃんがいた。このようなこともあるので、このような人たちをどうするのかという福祉の視点を防災の視点と繋げていくこと、それがマチ育て・ヒト育てになり、最終的には人と人のつながり（心と心のつながり）を強化して、災害に強いまちづくり、何に対しても強いまちづくりをしていくことが大切である。

6. 閉会

内田防災政策室長から閉会のあいさつ

国は、首都直下地震は今後30年以内に発生する確率は70%であると発表している。

いつ起こってもおかしくない地震にたいして、自助・共助が非常に重要である。

共助の中心になるのが「自主防災組織」である。

本日の講習を今後の防災活動に役立てていただくとともに、実際の避難所運営がスムーズに行くように「避難所運営マニュアル」を作成していただきたい。

